

しば子先生の

ミ

ニ

ミ

ニ

芝生教室

第119回 カタビラ6



先生：さて『マックワンフロアブル』の特徴や使い方は良くわかったかしら・・・

生徒：ベントグラスの根が浅いときは散布を避けた方がいいと言うことでした・・・

先生：そうね・・・根が3cmのベントはカタビラ以前にちゃんとした管理計画を考えないとね・・・

生徒：それ以外にも使い方のポイントはありますか？

先生：マックワンを使っている間は他の除草剤や藻や苔の除草剤などは使わないようにね・・・

生徒：やはり他の除草剤との混用は無理ですよ・・・

先生：そうね、ダブルパンチになるのでちょっと厳しいわ・・・成長抑制剤なども、マックワンを散布する前後1ヶ月は安全を見て避けて欲しいわ・・・

生徒：なるほど・・・やはりマックワン単剤が一番安全ですね・・・

先生：そのとおり・・・たまに早くなくしたいからと茎葉処理剤と同時に散布する人がいるけど、基本的に茎葉処理剤はベントにもかなり効くので、マックワンとの同時使用は絶対やめて欲しいわ・・・

生徒：茎葉処理剤はベントにもリスクありますからね・・・

先生：すぐにカタビラを消したいのはわかるけど、マックワン単剤でも徐々に出てくるカタビラも減っていくから、焦って茎葉処理剤を使ってリスクを高めては駄目よ・・・

生徒：良くわかりました・・・その他にも更新作業などとの兼ね合いはどうでしょうか？

先生：それも良く聞かれるわ・・・一番大事なのはカタビラが発芽する前に確実にマックワンを処理するということ・・・マックワン処理前に穴を開けてマックワンが穴に直接入ったとしてもベントの根には影響は無いわ・・・またマックワンを散布した後に穴を開けても、処理層が穴のところだけ無くなるけど周りの処理層からまたマックワンが溶け出してカバーするので、穴のところだけカタビラが発芽することも無いわ・・・

先生：周りの処理層にある水に溶けていないマックワンの成分がまた溶け出すんですね・・・

先生：そのとおり・・・残効が長く水溶性の低いマックワンだからこそできる技ね・・・

生徒：とにかくカタビラが発芽

する前に撒く！・・・が鉄則ですよ・・・

先生：そのとおりよ・・・あとやはりマックワンを散布しているときはインターシーディングは基本的に難しくなるわね・・・

生徒：やはりベントグラスの発芽に影響しますか？

先生：ベントグラス、ブルーグラスの種子は発芽しにくくなるわ・・・ただライグラスとトールフェスクはほとんど問題ないわ・・・

生徒：じゃあライグラスのオーバーシードには同時に使用してもいいんですね・・・

先生：そうなのよ・・・日本ではグリーンにライグラスは使わないけど、ティー、フェアウェー、グラウンドならバミューダ芝にオーバーシードしながらマックワンを散布すればカタビラの無い、きれいなターフになるわ・・・

生徒：すごいですね・・・実際グリーンのインターシードの時どのぐらいの期間種を蒔けないのでしょうか・・・

先生：最低でも前後1ヶ月・・・安全見るなら残効のある期間は避けたいわね・・・人によれば1ヶ月後に蒔いたら芽が出たという人もいますが、確約はできないわ・・・春2月頃にマックワンを撒いて、ベントの種は6月以降蒔く感じか・・・最近の新しいベントなら割と暖かい方が芽が出やすいので夏直前にマックワンと離して蒔く手もあるわね・・・それが秋にマックワンを蒔いて春は種だけを蒔く・・・その辺が現実的なところかしら・・・あとたまにマックワンを蒔いてグリーンの緑色が少し変わることがあるけど、これは薬害ではないわ・・・マックワンの成分をベントグラスが吸収すると、不要な物質なのでそれを葉の表面に持って行くらしいの・・・その結果葉の表面の太陽光の反射が変わって緑が少し変化するけど、葉や根の成長には全く影響は出ないわ・・・部分的に散布するとわかるけど、全面に撒くとその色の変化には気がつかない程度ね・・・

生徒：そうなんですわ・・・不思議ですね・・・

先生：この現象は土壤処理剤を撒いたときには芝だけでなくどんな作物にもよくでる影響で、マックワンの登録の試験でも同じ現象が時々現れたけど、芝生の成長には全く問題が無いので薬害とは判定されなかったわ・・・



しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・
shibako@hugh-enterprise.co.jp

《芝生教室のバックナンバーはこちらから》